

1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2890600063		
法人名	株式会社 ニチイ学館		
事業所名	ニチイケアセンター神戸西代 1階さくら		
所在地	神戸市長田区西代通4丁目7-1		
自己評価作成日	平成26年1月14日	評価結果市町村受理日	平成26年4月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/28/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kani=true&JigyosoCd=2890600063-00&PrefCd=28&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル		
訪問調査日	平成26年2月17日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご本人の意思や思いを大切にし、自己決定の場を尊重して支援しています。入浴拒否がある方には朝、昼、夕時間を変えてお誘いしたり、家事作業も時にはしたくなかったり、のんびりしたかったり。その日の気分で思い思いの時間を過ごしていただけるよう、決して無理強いする事無く、お一人お一人の出来る事をしていただいています。また、色んな障害を持って、可能な限りホームで過ごして頂けるように医療と連携して支援しています。また、地域に開かれたホームを目指し、夏祭り、避難訓練など行事の時などに地域の方にホームを訪問していただけるよう声かけし、少しずつホームについて知っていただいています。

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当該ホームの理念として「町で暮らす」と掲げ、利用者が地域の中で暮らし続けられるよう、近隣の店の利用で馴染みの関係を築いたり、地域の方と一緒に公園の花植えに参加する等、理念の実践に向けて取り組んでいます。地域との繋がりを大切にする事で、ホームの夏祭りや消防訓練に協力を得られるようになっていたり、認知症や排泄用品の勉強会にも参加が見られています。また、ホーム会議やユニット会議では利用者本位の暮らしに向けて話し合い、利用者の様子に合わせて職員の動き方を変えたり、環境整備や物品等の係を決め、職員からの意見を取り入れサービスの向上に努めています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および第三者評価結果

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	町で暮らすという理念を掲げ、近隣の住民に、関心を持っていただけるよう、様々な働きかけを出来るよう支援している。	法人の理念の基「町で暮らす」とホーム独自の理念を掲げ、職員には研修時にその込められている思いを伝え、毎日唱和することで意識付けをしています。利用者が地域の中で暮らし続けられるよう、近隣の店の利用で馴染みの関係を築いたり、地域の方と一緒に公園の花植えに参加する等、実践に向けて取り組んでいます。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	公園の花の植え替えに参加したり、夏祭りには近隣の人に遊びに来ていただいたり、消防訓練や研修会の声かけをしたりしている。	地域福祉センターのふれあい喫茶に出かけ地域の方々と交流したり、地域の方から花の苗や植木をもらう等、良好な関係が築かれています。地域との繋がりを大切にすることで、ホームの夏祭りや消防訓練に協力を得られるようになり、認知症やおむつの勉強会にも参加が見られています。また、近隣の小学校から歌やレクリエーションに訪れたり、中学生の職業体験も受け入れています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣の認知症の方や介護の相談にもものっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で、取り組みについて報告を行い、他事業所からもアドバイスをいただいたりして、サービス向上につなげている。	会議は家族や民生委員、他事業所管理者等の参加を得て隔月に開催しています。運営状況や行事、研修等の報告や今後の予定を伝え、参加者と意見交換や助言をもらっています。救急搬送についての質問に答えたり、津波時の避難場所についてのアドバイスをもらい一時避難場所について変更する等、運営に活かしています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村に、分からないことがある時には電話で聞くなどしている。長田区グループホーム専門部会等の時にとりくみをつ耐えたりしてお互いに協力関係を築けるようにしている。	行政には運営推進会議の報告はまとめて年に一度行い、電話やファックスで分からない事を聞いたり研修等の情報をもらう等、日々やり取りをしています。グループホーム専門部会に担当者の出席もあり、良好な関係が築かれています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアについては高齢者虐待防止についての研修会を年1回以上行っており、全職員が正しく理解できるようにしている。また、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束についてのマニュアルに基づいてホーム内研修を行い、全職員に周知を図っています。安全のためユニットの出入り口には鍵をかけていますが、利用者の行動を止める言葉掛けではなく、傾聴し受容するような対応を心がけ、拘束感のないよう支援しています。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止関連法についての研修会を事業所で1回、長田区グループホーム専門部会で1回実施し、虐待については知らなかったと言うことがないように、熟知に努めている。	虐待防止に関してのホーム内研修に加え、グループホーム専門部会で行われた研修に多くの職員が参加しています。管理者やリーダーが中心となり、日々職員とコミュニケーションを多く取り優しさを大切にする支援に努めています。	

ニチイケアセンター神戸西代(さくら)

自己	者 第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居者には後見人が付いておられる方もおられ、身近ではあり、研修でも勉強はしているが、権利擁護に関する制度として充分理解できているとは言えない。	権利擁護についてリーダーが職員に対して研修を行い、理解できるよう取り組んでいます。必要に応じて入居時に制度についての説明をしたり、制度の活用に向けて支援することもあります。	
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	出来る限り疑問点には答え、理解していたいていると思われる。	契約前には見学に来てもらい実際にホームの雰囲気や様子を見てもらっています。また、契約時には十分に時間をかけてサービスや契約内容を解りやすく説明しています。	
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱を設置し、定期的に出して運営に反映させている。また、法人単位で顧客満足度調査が年1回実施されている。	家族の面会時や電話、FAXなどでコミュニケーションをとり、意見や要望を聞いています。音楽療法についての要望を受け行事やレクリエーションで音楽を取り入れるなど、ホームで出来ることから取り組んでいます。また、年に一度の法人によるアンケートを行い、出された意見は検討し結果を便りで伝えています。	
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ホーム会議やユニット会議、個別面談等で意見を聞き、反映させている。	月に1回のホーム会議や月に数回ユニット会議を行い、行事や業務改善について多くの意見を出し合っています。利用者の様子に合わせて職員の動き方を変えたり、環境整備や物品等の係を決め、職員からの意見を取り入れサービスの向上に努めています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアアップ制度もあり、希望があれば法人内異動も支援し、自己実現の場となるように配慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	支店単位で研修があり、それをホームで落とし込み研修を行なっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	長田区グループホーム専門部会に参加したり、法人内の他のグループホームとの連絡会もあり、サービス向上に努めている。		

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15			○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時にご家族の困り事、ご本人の困りごとをアセスメントし、対応している。		
16			○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス導入段階で家族様が困っておられる事や要望をお聞きし、出来るだけご家族様の思いに添えるような関係作りを心掛けている。		
17			○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	申込時に、当ホームでの支援がその方にとってどうか見極め、他のサービス利用の方がご本人様やご家族様にとって好ましいと判断した場合には、他のサービスの紹介も含め、支援している。		
18			○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	様々なことを出来る限り一緒にしていただけるようお願いし、色々な場面で感謝の言葉を伝えられるように支援している。		
19			○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様とは密に連絡を取るようにし、ご家族様にも様々な場面で関わっていただけるようお声かけしている。		
20	(11)		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご自分の店を訪ねる機会を作ったり、お客様が訪問された時にはお部屋でお茶を提供する等して、ご家族様やご友人が訪問しやすい雰囲気作りに努めている。	以前の住まいの近隣の方が果物などの差し入れを持って来てくれたり、学友の面会があり同窓会にも一緒に出かけている方もいます。家族の協力を得て自宅に戻ったり、個別外出で良く行っていた喫茶店に行く等、利用者にとって馴染みの場所に出かけられるよう支援しています。年賀状や暑中見舞いなどのやり取りも支援しています。	
21			○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士でうまく気が合わなかったりする場面では職員が間に入ったり、椅子の配置を変えるなどしている。また、できるだけ家族のように暮らしていけるよう、間を取り持ったりもしている。		

ニチイケアセンター神戸西代(さくら)

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22			○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後のご本人様の情報を可能な限り取得する事に努め見守りを行なっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(12)		○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	お一人お一人の生活リズムの把握に努めると共に出来る限りそれに添えるよう努力している。	入居時に家族や本人から意向を聞いたり、家族にこれまでの暮らしや馴染みの関係、好みなどの情報を記入してもらっています。入居後は日々の関わりの中で話した言葉を記録に残したり、カンファレンスで話し合い思いや意向を把握しています。言葉で表現できない方には、表情や仕草を観ながら思いを汲み取っています。	
24			○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時、又機会がある毎にご家族様よりお話を伺っている。		
25			○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	アセスメントシートにセンター方式を利用、スタッフ間でも情報を共有し、日々の現状把握を行なっている。		
26	(13)		○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリング、アセスメントの実施と共にスタッフ間で話し合い、ご家族様の意見も反映させた介護計画を作成している。	利用者の思いや家族の意向を踏まえ、アセスメントを基に担当者会議を開き、介護計画を作成しています。3ヶ月毎にポイントを絞ったアセスメントを行い、担当者会議で見直しを行っています。見直しにあたっては往診や訪問歯科、訪問看護の来訪の時に情報を得て計画に反映しています。	
27			○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録への詳細な記録と共に管理日誌及びスタッフ間の連絡ノートにて情報共有に努めている。		
28			○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人様やご家族様の状況に応じ、ご家族様が対応できない場合、事業所が対応するなど柔軟な支援に努めている。		

ニチイケアセンター神戸西代(さくら)

自己	者 第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ふれあい喫茶に参加したり、近くの公園の花の植え替えに参加したり、買い物、散歩などを通して地域の方々と触れ合う機会作りにも努めている。		
30	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携医の医療を受けられる事をおすすめしながら、ご本人様とご家族様の希望に充分な配慮をし、医療支援を行なっている。	今までのかかりつけ医の継続も可能であることを説明していますが、殆どの方が協力医に変更しています。かかりつけ医を継続している方は家族が受診に付き添い、家族を介して情報のやり取りをしています。協力医は2週間に1度の往診があり、緊急時は訪問看護師に連絡し協力医とも連携が取れる体制を整えています。必要に応じて歯科や皮膚科の往診も受けることができます。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の中で得た情報はすばやく訪問看護に連絡・相談し、適切な受診や看護を受けられる様支援している。		
32	(15)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は家族や病院と連携を取り、情報交換や相談に努めている。早期退院に向けて支援を行なっている。	入院した時には週に1～2回見舞いに行き、医師や看護師等と退院に向けて話をしています。家族とも電話で連絡を取り合い、情報を共有しながら早期に退院できるよう支援しています。	
33	(16)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化してきた場合や終末期について、入居時から少しずつ時間をかけて、ホームでの医療体制についてご理解いただき、重度化した場合、看取りも出来るが、次の施設や病院につなぐ支援もしている。	入居時にホームで出来る支援について説明しています。徐々に利用者が重度化する中で、医師と家族とホームで話し合いを重ねながら方針を決め、できる限りの支援を行っています。家族の協力を得て看取り支援に取り組んだり、状況によっては病院や他施設への転居に向けて支援しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の応急手当、事故、災害時の初期対応の研修や訓練を年に1回以上ホーム会議で行なっている。		
35	(17)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	昼夜を問わず緊急時の対応、避難方法を全職員が身につけられる様ホーム会議で訓練し、地域の避難場所に協力体制をお願いしている。	年に2回消防署の協力を得て昼夜を想定し、消防訓練を行っています。通報や初期消火、避難訓練等の訓練を実施しています。2回とも地域の方の参加もあり、1回は家族会を兼ねて家族の参加も得ています。	

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(18)		○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	高齢者であるご利用者様に尊敬の念を持ち、尊厳を大切にしたケアを提供できるよう、言葉や態度には特に職員の指導を心掛けている。	入職時研修や接遇マナー研修を行い、人生の先輩であり尊敬の念を持って接することを職員に伝えています。丁寧な言葉遣いや対応を心がけていますが、時には言葉遣いが乱れることがあり、その都度個別に注意しています。特に排泄支援の際は、声の大きさや扉の開け閉め等に配慮しています。	
37			○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出来るだけご本人の希望に添えるよう、どんな声かけも無理強いはしないように心掛けている。		
38			○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事、入浴や散歩、レクリエーションなど、声かけをするが、拒否がある時には時間を変えるなどして、無理強いはしないように心掛けている。		
39			○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節のその人に似合う服装を着て外出できるように、ご本人と相談したりしながら、ご家族様にも洋服の買い物をお願いしたりしている。		
40	(19)		○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	無理強いはないが、台所に入って米を研いだり、炒めたり盛り付けをしたり、包丁を持ったり声かけを行なっている。食器を洗ったり、拭いたり様々な場面を提供するように心掛けている。	献立はその日に担当する職員が利用者の希望を聞きながら考え、買い物には利用者も一緒に行くこともあります。利用者のできる事に携わってもらい食事を作り、弁当を持ってきた職員と一緒に食事をすることもあり和やかな食事の時間となっています。近くのファミリーレストランや回転寿司等へ外食に行ったり、手作りおやつ等を楽しんでもらっています。	
41			○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	少しずつ嚥下が悪くなってきた時には、刻みや、とろみ、ミキサーなど形態を変えたり、体重が増えすぎている時にはご飯の量を減らしたり、一人ひとりの状態に合わせた食事を心掛けている。		
42			○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアの習慣が無く、誘いに拒否のある方は朝だけ出あたりするが、出来るだけ毎食後口腔ケアをしていただけるよう、声かけや介助を行なっている。		

ニチイケアセンター神戸西代(さくら)

自己	第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	出来るだけトイレでの排泄を心がけ、ご自分で自らいられない方には仕草や様子などを見てトイレ誘導を行ったりしている。	個々の排泄の記録を1週間分の表にすることにより、パターンがわかりその人のタイミングでトイレに誘導でき、失敗が減った例があります。また、パッドの講習会を受講し、個々に合わせたおむつやパッドを選び、不快感の少ないよう支援しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ヨーグルトを毎朝提供し、便秘の時には飲むヨーグルトを提供し、水分摂取、豆類や繊維のある食品の提供を心掛けている。		
45	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ご本人の好みを考慮して、ある程度の時間帯を決めて、声かけは行なっているが、決して無理強いせず、朝や夕方、寝る前などにも必要な時には入浴を支援している。	基本的に隔日に入浴できるように支援していますが、汚染したり希望があれば毎日入ることも可能です。職員体制があれば利用者の希望に合わせ、一人ずつゆっくり入浴してもらっています。ゆず湯や菖蒲湯等の季節湯も楽しんでます。拒否される場合はさりげなく誘導したり、声かけの工夫で入浴に繋げています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	出来るだけリビングで過ごしていただくようにしているが、体調や状態、ご本人の気分で居室で自由に眠っていただいたりもしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬が変わった時には特に、様子観察に努め、処方されたお医者様と連携を密に取り、副作用による状態の悪化を未然に防げるように気をつけている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	リビングで役割を持って過ごしていただけるよう、一人ひとりの出来る事探しを心掛けている。また、月1回は行事に合わせて少し大きなイベントを企画し、楽しんでいただけるようにしている。		
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その人の状態に合わせて、出来るだけ皆さんが外出できるように支援している。レストランで外食を楽しんだり、水族園や花見、初詣などの遠出を楽しんだりもしている。	天気や気候の良い時には、公園や近くの神社に出かけています。花見には弁当を届けてもらい楽しんだり、おやつを持って行き外で食べる等、できる限り外出できるよう支援しています。水族館や初詣等の遠出の外出は行事予定を立て取り組み、楽しんでもらっています。	

ニチイケアセンター神戸西代(さくら)

自己	者 第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ある程度のお金を持っていただいている方もおられる。管理に不安な方は事務所で預かっている時もある。買い物時に支払いをお願いすることもある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話がかかってきた時には取次ぎ、ご自分からかけたい時には事務所の電話でかけていただいたりしている。年賀状のやり取りもしている。		
52	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	出来るだけ清潔な空間を提供できるように掃除は心掛けている。また、季節ごとに写真を含めた展示をし、季節や行事を感じていただけるようにしている。	玄関に生花を生けたり、リビングには季節の飾り付けを行い、利用者に季節を感じてもらったり、行事の写真を多く掲示しています。廊下に椅子やベンチを置き少人数でも過ごせるよう工夫しています。また、毎朝利用者と一緒に掃除したり、換気や温湿度調整に気を配り、気持ち良く過ごしてもらっています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファの位置や、椅子、机の位置を工夫し、危険なく移動ができたり、少しみんなと離れたところで過ごしたり自由に過ごせるようにしている。		
54	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自分の家で使われていたものを出来るだけ持ち込んでいただき、環境の変化が無いように工夫している。	入居時に自宅と差異のない環境作りの良い点を説明し、使い慣れた物を持って来てもらったり配置を家族と相談しています。馴染みのベッドやタンス、椅子、鏡台等を持ち込まれたり、家族の写真やぬいぐるみを飾ったり、大切な仏壇を置くなど、その人らしい居室となっています。生活習慣に合わせてカーペットを敷き座卓を置いている利用者もいます。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレには大きな字で分かるようにしていたり、手すりを持って移動が出来るようにしてあったり出来るだけ安全に迷わずに過ごせる工夫をしている。		